

「上場小学校の建築踊り伝承活動の取組」

1 学校名

湧水町立上場小学校

2 学年・人数

全校児童（計18人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年9月～11月 上場地区農業構造改善センター及び上場小学校
運動場・体育館

令和4年11月10日（木）発表会リハーサル（湧水町吉松体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年10月2日（日）上場小学校運動会

令和4年11月13日（日）湧水町文化祭・舞台芸能祭

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能について

(1) 名称

建築踊り（けんちくおどり）

(2) 由来

1940年頃、当時横川の柴尾田から嫁に来た人が、そこで踊られていた「建築踊り」を湧水町上場地区水窪集落の婦人に教えたもので、家を建てる工程を表現したものである。その後婦人会の方々が新築した家の上棟式で家内安全等を願って踊るようになり、今日まで伝承されてきた。

(3) 構成等

大工道具（鉞、大・中・小鋸、手斧、鉋、金槌、ノミ、左官こて、万丈がね等）を持ち、曲に合わせて道具に応じた踊りを反時計回りに思い思いに踊る。同じ所作がないのが特徴である。

原則として、女性のみで踊ることになっている。曲には唄はなく、太鼓と三味線で演奏される。本番では黒の法被に豆絞りはちまきにして踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

平成13年度から「子供たちに地元の伝統芸能を継承していこう」と、地域の「上場地区芸能保存会」の全面的な支援の下、水窪地区の「建築踊り」、佃地区の「鎌ん手踊り」（別府地区の「棒踊り」は現在指導者がおらず実施せず）を隔年で児童が教わり、校区合同運動会で発表している。新型コロナウイルス感染防止対策で令和2年度から合同運動会が開催できておらず、2年程取組を中止していたが、今年度は3年ぶりに発表することにした。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら伝統芸能を継承していくために、発表の場を校区合同運動会に位置付けている。また、町の文化祭・農林商工祭への出演依頼があれば、披露している。今後も継続して地域と連携しながら校区の伝統芸

能を伝承していけるように体制を整えた。

7 取組の様子



建築踊り練習の様子



上場小学校運動会



文化祭りハーサル



湧水町文化祭

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

運動会や文化祭で多くの人たちの前で発表できてよかった。伝統がなくなるのは寂しいので、私たちが受け継いでいきたい。

【教職員】

新型コロナウイルス感染防止から運動会が単独、午前開催のため伝統芸能披露をやむなく中止していたが、児童の「伝統を引継ぎ、保存したい」という強い思いから今年度復活させることができた。また、保護者の理解や協力のおかげで、町の文化祭にも出演することができた。

本取組を通して、児童に生まれ育っている地域の誇りや愛着をもたせることができた。

【地域の方から】

地域の芸能として定着するも人口減少により後継者不足で、児童が引継いでくれ、有り難いと思っている。今回初めて踊る児童も堂々たる姿で踊っており、感動した。

今後も伝統芸能を引継いでもらい、元気な上場っ子の姿を見たい。

【保存会から】

小学校の児童一人一人が踊りの道具決め、使い方を覚え、一生懸命元気よく踊り、継承ができたと思う。高齢化が進み、郷土芸能の指導者が減少してきているが、地域・学校・PTAと連携し、今後も継承活動に取り組んでいきたい。